



災害時の電源確保

大地震などの災害時には停電が発生し、復旧までに何日もかかることがあります。現代において電気は生活基盤の基本であり、電気がない生活はかなりの不便を強いられることとなります。ネットにメール、各種アプリと何かと便利なスマートフォンは、震災時においても重宝します。実際に東日本大震災のときに、安否確認や避難所に関する情報の発信・受信など多くの場面で活用されました。しかし、スマートフォンは電池の消費が激しく、充電できないことに多くの人が悩まされたそうです。いざというときのために、乾電池を使った充電器などの準備をお勧めします。

<p>LPガス低圧供給に対応</p> <p>日頃使っているLPガスがそのまま使える。</p>	<p>長時間使用に対応</p> <p>LPガス50kg容器なら100時間発電可能 ※エンジンオイルなどの補充が必要な場合あり。</p>
<p>低温環境にも強く冬場でも使用可能</p> <p>使用温度範囲は-15℃～40℃で、環境に左右されない。</p>	<p>液化石油ガス法に対応</p> <p>安心してLPガスが供給できるように、法で定められたソケットを採用。</p>

市では、避難所などでの電源確保のため、市内の各防災倉庫に発電機を備蓄しています。従来はガソリンを燃料とする発電機を備蓄してきましたが、今年度「宝くじ社会貢献広報事業」の助成を受け、プロパンガスを燃料とする発電機を11台購入しました。ガソリンは保管が大変であることに加え、東日本大震災の直後がそうであったように、災害時には確保することが困難です。それに対してガスは、避難所となる学校などに常備されており、比較的確保が容易です。

災害時の地域での電源確保のために、自主防災組織や事業所などでガス発電機の備蓄を考えてみてください。

親切な言葉や格安な施工料金で近づき、不安をおおって勧誘する手口です。その場で契約せずに家族と相談するなど、冷静に判断をしましょう。状況によってはクーリング・オフも可能です。

日中、自宅で一人で過ごすこと多い高齢者からの相談が特に多く寄せられています。少しでも不安に感じたら、消費生活相談窓口にご相談ください。

格安で雨どいを修理してもらえませんが、高額な契約をしてしまった

（事例）

「近隣で工事をしているが、お宅を通りかかったら雨どいが傾いているのに気が付いた。ついなので千円で直しますよ」と工務店の人が自宅を訪ねてきた。格安だと思ったのでお願いしたところ「屋根瓦がずれている。早く直さないと家が倒壊する」と言われて不安になり、高額な契約をしてしまった。冷静に考えると、本当に必要な工事だったのか疑問だ。

消費生活相談窓口

月～金曜日・午前9時～午後4時

巡回相談≫毎週木曜日・午前10時～午後4時

※予約優先

